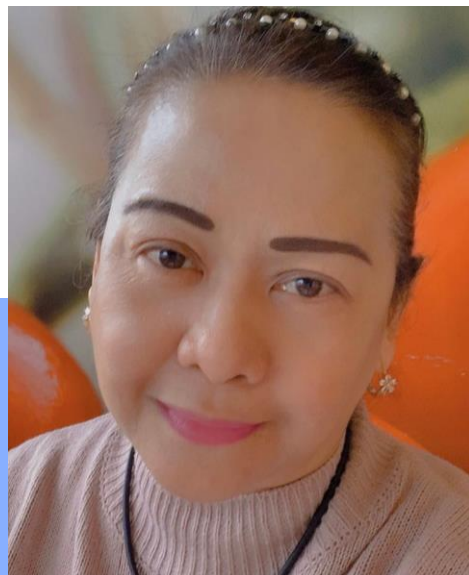


元ピアニスト英語講師 嶺南に暮らすフィリピン コミュニティの頼れる存在

毛利 メリンダ ロドラ さん

フィリピン共和国ギナヤンガン出身マニラ育ち。

ピアニストとして1987年に来日し、日本人の男性と結婚。現在は小学校や大学で英語を教える傍ら、「若狭フィリピンの会」会長として嶺南地域を中心に、福井県に暮らすフィリピン人コミュニティを支えている。



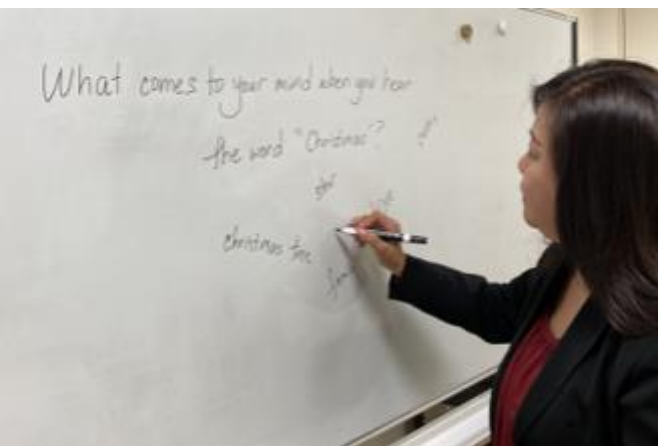
— 日本に来たきっかけを教えてください。

1987年に日本に来て、福井には1991年に来たので、もう30年以上になります。日本には最初ショーに出演するピアニストとして来ました。歌いながらピアノを弾いたり、ピアノだけ弾く日もあったり。時々リクエストに応えたり。大阪や京都、広島で活動して、それから福井に来ました。

小浜で今の主人と出会い、それからはずっと福井です。ピアノは今でもやりますが、気が向いたときだけです。

— 現在の仕事は？

現在は、小学校の外国語指導助手(ALT)と県立大学小浜キャンパスで英語の講師をやっています。



— 現在の仕事に就いたきっかけは？

自分の子どもが小学生のときに、学校から月に1回、子どもたちに英語を教えなかと誘われたのがきっかけです。先生になったら、ただのフィリピン人じゃなくて尊敬されると思って始めました(笑)。最初はボランティアでしたが、続けるうちにお願いされる小学校がだんだん増えて、現在では9校を回っています。もう20年近くになりますね。

県立大学の英語講師の仕事は、小浜キャンパスで週3日くらい働いています。もう10年以上になりますが、これが一番大好きな仕事です。

「Ocean'sX」という場所に学生らが授業の合間に来て、学生が話したいトピックを英語で話してくれます。ちょうど子どもが大学進学で家を離れたときにこの仕事を始めたので、学生たちが自分の子のように、話していると楽しいんです。

— ご家族のことを教えてください。

子どもが3人いて、みんなもう大人です。真ん中の子は結婚して孫が1人います。とてもかわいいです！ボールを自分で蹴ることもできて、もうじき保育園に入ってしまうので、たくさん会えるのは今だけです。とても寂しいです。

家族とは日本語で話します。最初の頃は、英語と日本語で半々でしたが、昔は小学校での英語教育が始まっていなかったのが、英語を話す子だと他と変わってると思われて、学校でイジメられるでしょ？それに担任の先生も英語ができない人で、これはムリだと思って日本語で話すようになりました。だから、ウチの子たちは、英語が話せません(笑)。

子どもたちが大きくなってから、「何で私を英語が話せるようにしなかったの！」って、いつも言われます。私も後悔してるので、孫には絶対に英語で話します(笑)。

— 福井のどこが好きですか？

小浜ですね。小浜だけでも130の寺があります。でも、いつも有名な寺しかリポートされないんです。私は130ヶ所全部見たいんですよ。京都みたいな宣伝が足りないんだと思います。京都みたいにできるはずなんです！だって、ここは全部きれいな食べ物とか空気もきれいです。京都よりも好きですね。

— 趣味について

写真を撮って、Facebookに載せるのが好きです。以前に「Fukuiレポーターズ※」に参加していて、とても良かったです。だって、福井を世界に発信できるでしょ。福井の魅力って意外と知られていなくて、残念です。

※Fukuiレポーターズ

県が毎年、福井県にお住まいの外国人の方に委嘱し、企業の商品モニターや県内観光地・イベントに訪れた様子をSNSで発信する事業。



— 日本で生活するうえで困ったことは？

最初の頃はやっぱり日本語でした。結婚して小浜に住み始めた頃は、ホントに日本語ができませんでした(笑)。日本語を使うのはショーのときぐらいだったから、「お腹、すいた」とか「やめたい。痛い。」が分かる程度の日本語しか分かりませんでした。

それで、(京都府の)舞鶴にあったカトリック教会に行ってお話の勉強をしました。シスターが優しく、フィリピン人に無料で教えてくれました。それと、「若狭日本語の会」にもお世話になりました。日本人の先生が、お母さんのようにとても温かく接してくれたのを覚えています。今では、日本語ができるようになったおかげで、いろいろなアクティビティやボランティアに参加することができています。



地域で行われた防災研修に友だちと参加

— 文化の違いで困ったことは？

文化の違いには、困るというより面白いと感じます。文化が全然違うから。でも、よく間違ってしまうことがありました。フィリピンでは靴を履いたまま家の中に入りますが、日本だと靴を脱ぐじゃないですか。それに慣れるまでは、気付いたら靴を履いたまま家の中というときがよくありました(笑)。

あと、福井はゴミの分別をちゃんとしますよね。大阪とかにいたときは、なんでも捨てられたんですけどね。スチールとアルミの違いなんか外国人には分からないですよ(笑)。福井のルールは、最初は邪魔くさいと思ったんですけど、今では、環境にいいことをしているなと思うようになりました。

— 「若狭フィリピンの会」について

みんなかなり仲良いですよ。いつも誰かの誕生日にはみんなで集まり、食べ物を持ち寄ってパーティするんです。それが大好きなんです。



福井国際フェスティバルに参加した時の写真

— 日本人の友人について

数年前にあるパーティに参加したことがあって、参加者と英語で話してたんですけど、その時にアメリカに住んでいたことがある日本人の方が声を掛けてくれました。日本では英語で話せる相手がいないからと、それからランチに誘われて、いつもココスで英語でペチャクチャと話して、時々他の客に見られます(笑)。私も英語で話す相手がいないので、とてもいい話し相手です。

— コミュニティリーダーについて

よくある相談は、外国語はどこで勉強できるのか、資料を英語にしてほしいとかですね。私はそんなに日本語が上手じゃないけど、フィリピン人のために翻訳を何回もしたことがあります。例えば、Birth Certificates (出生証明書)の翻訳とか。フィリピン人に英語で記入してもらって、私がそれを日本語に翻訳するというのをいくつもしたことがあります。いつも翻訳正しかったか不安になりますが... (その後)連絡もないから、問題ないってことだと思います(笑)。

— コミュニティリーダーとして伝えたいことは？

このあいだミーティングがあったんですけど、すごかったですよ。災害が起きたときに、何のアプリを使えばいいのかとか、どこに逃げればいいのかとかを教えてください。練習だから面白かったですよ。こういう事態での対応は、知っていないと役に立たないから、講習や訓練に参加することは必要だと思います。



嶺南地域のコミュニティリーダーたち。右から3番目がメリンダさん。

— 日本人の子どもについて

外国にルーツのある子どもへのイジメがひどいのは国籍や人種が違う人が福井に住んでいるということを知らないから。欧米の人を「外国人」とイメージしている子どもたちが多く、実際に福井に多いのはブラジル、ベトナム、中国、フィリピンの人。イメージとは違う外国人が、実際にはたくさん住んでいるということも、もっと身近に感じてもらえるといいですね。

— 目標について

機会があったらテレビに出たいです！夢は先生やアナウンサー、テレビのコメンテーターなんです！YouTuberも好きですよ！主人によく言われるのは、みんなと写真撮るとき絶対に私は真ん中に行く(笑)。

インタビュー日：2021年3月22日

◎ふくい外国人コミュニティリーダーとは？

「外国人県民が安心して暮らせる福井」を目指し、外国人県民等のネットワークを活かし、県内の外国人コミュニティに生活・災害情報を届けたり、日本人県民とのコミュニケーションの橋渡しや災害時の自助・共助等の担い手としてご活躍いただいています。詳しくはこちら⇒

